

一橋徳川家記念室開設二十周年記念
特別展「御三卿 一橋徳川家」

一橋徳川家は、江戸幕府 8 代将軍徳川吉宗の 4 男宗尹（むねただ）が江戸城一橋門内に邸を賜ったことにはじまります。田安・清水の両家と共に御三卿と呼ばれ、十万石の家格を有し、将軍の身内として処遇されました。

一橋徳川家より昭和 53 年 11 月に雛人形等が、さらに昭和 59 年 2 月には伝世の家宝及び文書記録類の一切が本県へ寄贈されました。昭和 62 年 10 月、本県は寄贈を受けた文化財を後世へ伝えるため当館に「一橋徳川家記念室」を設置し、テーマ毎に展示公開を行ってまいりました。

平成 19 年度は、「一橋徳川家記念室」開設二十周年となります。本展覧会はこれを記念し、一橋徳川家より寄贈を受けた史資料に加え、かつて一橋徳川家に伝来した資料を併せて展示します。公的な場で用いた武具、絵画、能道具、茶道具といった表道具、私的に用いた婚礼調度や人形、遊戯具などの奥道具、さらに文書等により、将軍家に最も近い存在である御三卿の姿を紹介します。

プロローグ

紀州藩主から 8 代将軍となった徳川吉宗の 4 男宗尹から一橋徳川家ははじまります。吉宗ゆかりの品や、明治 4 年に撮影された一橋邸のあった一橋門付近の写真など紹介します。



「紺絲威鎧」



古写真「一橋門付近」

徳川吉宗所用久能山東照宮蔵

第 1 部 一橋徳川家の成立と当主の生活



「孔雀石置物」当館蔵



「斑梨子地沢瀉菱唐草葵紋散蒔絵行器」たつの市立龍野歴史文化資料館蔵

初世宗尹から 10 世茂栄（もちはる）に至る歴代当主と、一橋徳川家の組織（領知・邸臣）および当主の生活を、資料と文書により紹介します。御三卿の一つである一橋徳川家の場合、当主の主な務めは、将軍への御機嫌伺いや各種儀式に参加するため、江戸城へ登城することでした。

第 2 部 表道具

接待や儀式という公的な場で用いた道具が表道具です。大名家では、その禄高や家格に応じてさまざまな道具類を所持していました。御三卿の一つである一橋徳川家の場合も同様でした。ここでは、絵画・能道具・茶道具・武具を紹介します。なかでも、「郭子儀花鳥図」は華麗な色彩の華やかな絵画作品です。また、昭和 18 年に靖國神社へ寄贈された変わり兜類もまとめて紹介します。なお、作品の一部に展示替えがあります。



「赤銅磨地長丸形透色絵波清兔図鐙」
当館蔵



「唐花打板雲文様段替厚板唐織」 当館蔵



「郭子儀花鳥図」 個人蔵

第3部 奥道具

公的な場で用いた表道具に対して、遊戯具など私的に用いた道具や婚礼調度・人形など婦女子が用いた道具を奥道具とといいます。遊戯具、婚礼調度のほか、印籠や女性の髪飾り、雛道具と人形を紹介します。歴史館では、例年この時期に「一橋徳川家のひなまつり」として人形の展示を行ってきました。今回の特別展では、大形の雛人形とともに、見立三国志や三千代さまなど人形の優品が一堂に会します。雛道具は婚礼調度のミニチュアいわば目録でした。



三つ折れ人形「三千代様」 当館蔵

7世慶寿（よしひさ）に嫁いだ伏見宮貞敬親王の娘直子の雛道具大揃えは総数110件を超える見事なものですが、今回は、直子の婚礼調度と併せて展示します。これも見どころの一つです。



有職雛(小直衣雛) 当館蔵

エピローグ

明治元年(1868)一橋茂栄は、田安慶頼（よしより）とともに徳川宗家より独立し、一橋藩が成立しました。しかし、翌明治2年版籍奉還によって廃藩となり、明治3年6月末を以て一橋藩は解体されました。文書などにより、明治以降の一橋徳川家の姿を紹介します。



万年筆(サンフランシスコ平和条約締結時使用) 当館蔵

関連行事

- (1) 講演会 「一橋徳川家と幕府政治」
期 日：平成20年2月16日(土) 14:00～
講 師：竹内 誠氏(江戸東京博物館長)
会 場：当館講堂 参加自由 先着200名
- (2) 講演会 「一橋徳川家の絵画」
期 日：平成20年2月24日(日) 14:00～
講 師：安村 敏信氏(板橋区立美術館長)
会 場：当館講堂 参加自由 先着200名
- (3) 特別講座「一橋徳川家のあゆみ」(3回シリーズ)
期 日：2月9日(土)・23日(土)・3月8日(土) すべて14:00～15:00
講 師：永井 博(学芸部 首席研究員)
会 場：当館講堂 参加自由(先着200名)
- (4) 展示解説
日 時：2月17日(日)・3月2日(日)・16日(日)
すべて11:00～13:30～
担 当：石川 武治(学芸部 学芸第二室長)
会 場：展示室他
申 込：参加自由(要入館券)